

八九

政 第 二 二 号

案 起

昭和三十四年七月三十一日

定 決

昭和三十四年七月二十九日

行 施

昭和 年 月 日

内閣総理大臣

臨時代理



内閣官房長官



首席内閣参事官

内閣参事官

内閣官房副長官

事務官

別紙日本共産党中央委員会送付

最近の原水爆禁止運動に対する政府の態度についての抗議文

右供覧

主な内容

一 安保条約改定、原水爆禁止運動に対する圧迫等に対する抗議  
二 五回原水爆禁止世界大会を支持

裏面白紙



抗議文

(一) 政府と自民党は、今までもアメリカ帝国主義の侵略的軍事ブロック政策の片棒をかつぎ、憲法をふみにじつて核武装をすすめてきた。さらに安保条約改定によつて反共軍事同盟の公然化、核武装の合理化と自衛隊の海外派兵を計画してゐる。だからアメリカ帝国主義と心をあわせた政府や自民党は、最近原水爆禁止運動に圧迫や干渉を加え、原水爆禁止運動そのものをつぶさうとしてゐるのである。さらに原水爆禁止運動に参加してゐる口民の多数が安保改定の本質に気づくことを恐れまゐるのである。

われわれは、これらの意図に反対し、政府の卑劣な行動に強く抗議し、口民とともに断固として闘うものである。

(二) われわれは才五回原水爆禁止世界大会を心から支持し、大会が核実験禁止、不使用や、被爆者の救済などについて、政府や大口首脳会談に訴えらるとともに、核武装や海外派兵と安保改定とのむすびつきの内容を十分に討議することとを期待してゐる。安保問題を核武装と関連し、討議することは当然のことである。

一九五九年七月二十五日

日本共産党中央委



冬海院 漢字 宛

日本共産党中央委員  
書記局員

伊井 弥四郎

東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目七十一番地  
電話 青山 三〇三二  
三〇三三  
三〇三四  
三〇三五  
三〇三六  
三〇三七  
三〇三八  
三〇三九  
三〇四〇  
三〇四一  
三〇四二  
三〇四三  
三〇四四  
三〇四五  
三〇四六  
三〇四七  
三〇四八  
三〇四九  
三〇五〇  
三〇五一  
三〇五二  
三〇五三  
三〇五四  
三〇五五  
三〇五六  
三〇五七  
三〇五八  
三〇五九  
三〇六〇  
三〇六一  
三〇六二  
三〇六三  
三〇六四  
三〇六五  
三〇六六  
三〇六七  
三〇六八  
三〇六九  
三〇七〇  
三〇七一  
三〇七二  
三〇七三  
三〇七四  
三〇七五  
三〇七六  
三〇七七  
三〇七八  
三〇七九  
三〇八〇  
三〇八一  
三〇八二  
三〇八三  
三〇八四  
三〇八五  
三〇八六  
三〇八七  
三〇八八  
三〇八九  
三〇九〇  
三〇九一  
三〇九二  
三〇九三  
三〇九四  
三〇九五  
三〇九六  
三〇九七  
三〇九八  
三〇九九  
四〇〇〇

龍宮 (十三)



抗議文

(一) 政府と自民党は、今までもアメリカ帝国主義の侵略的軍事プロック政策の片棒をかつぎ、憲法をふみにじつて核武装をすすめてきた。さらに安保条約改定によつて反共軍事同盟の公然化、核武装の合理化と自衛隊の海外派兵を計画している。だからアメリカ帝国主義と心をあわせた政府や自民党は、最近原水爆禁止運動に圧迫や干渉を加え、原水爆禁止運動そのものをつぶさうとしているのである。さらに原水爆禁止運動に参加している口民の多数が安保改定の本質に気づくことを恐れまっているのである。

われわれは、これらの意図に反対し、政府の卑劣な行動に強く抗議し、口民とともに断固として闘いものである。

(二) われわれは才五回原水爆禁止世界大会を中心から支持し、

大会が核実験禁止、不使用や、被爆者の救援などについて、政府や大口首脳会談に訴えらるとともに、核武装や海外派兵と安保改定とのむすびつきの内容を十分に討議することとを期待している。安保問題を核武装と関連し、討議することは当然のことである。

一九五九年七月二十五日

日本共産党中央委員会



内閣総理大臣

岸信介殿

内閣總理大臣  
岸 信 介 殿

東京都渋谷区千駄ヶ谷四の二六

日本共産党中央委員会

電話青山 (408) 二二八六 (代表)

1955年  
7月  
26日

裏面白紙